



宮川 静代

私の通った小学校は、山あいの小さな学校でした。図書室とはいえない教室の片隅に本棚があつて、そこにしゃがみ込んでよく読んだもので、情報のないあの頃、むさぼり読んだ物語のいくつかは強く印象に残っています。その中の一つに新美南吉の「ごんぎつね」があります。今読んでも、胸がつまります。

親のいないひとりぼっちの子狐、ごんはいたずらをくり返してはその淋しさをまぎらせる毎日です。この物語は若くして死んだ新美が、青春時代に書いたものです。読む方は、何の抵抗もなくごんを擬人化して受け入れていくところに、単なる童話、単なる狐の話を超えた感動が胸を打つのでしよう。

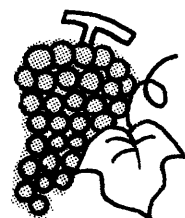
ある日、ごんは川辺に置かれた兵十のカゴの中からうなぎを盗みます。見つかったごんは逃げ出し、自分のほら穴の近くで頭だけ噛みくだいて捨てます。後日、兵十が病気の母親に食べさせるためだった事、その母親はまもなく死んだことを知ったごんは、とても苦しみます。おわびにごんは、毎日兵十のもとへ栗や松茸をこっそり届けます。兵十は、誰だろうと不思議がります。ある日、家の中に入っていくごんを見た兵十は、うなぎを盗られた腹いせに火縄銃でごんを撃ちます。そして小盛りに置かれた栗に気づきます。

『「ごん、お前だったのか栗をくれたのは」ごんは目をつぶったままうなぎを食しました。兵十は銃をばたりと落としました。青い煙がまだ筒口から細く出ていました。』で終わります。

人生は、思い通りにならぬことが多い前提です。つらい事の多い人生に、時どき珠玉の喜びが散りばめられているとすれば、それはやはり「愛」でしょう。

愛を求め続けたごんは、兵十の感謝と謝罪と愛の気持ち

を確かなものとして受けとめ、兵十に抱かれて満足して息をひきとつたと、私は思う。いや思いたいのです。(おわり)



中津温泉紀行

中岡 鉄夫

十月十一日木曜八時十五分出發、高退協昼食会参加者十五名、心配されていた天気も昼過ぎから晴れてきた。

途中、越知の横倉山自然の森博物館見学、館長の山田先生より詳細な説明を受け満足をした。横倉山は化石の宝庫といわれ、四億二千万年前の「クサリサンゴ」や「ハチノスサンゴ」「三葉虫」などの化石がたくさん見つかることで有名だ。そして横倉山には日本列島が成立した当時の岩石がある。

十一時半ごろ中津温泉着、お湯に入り昼食、食後林先生の大相撲解説があり、質問が続出、興味津々であった。

さて、『消えた年金』という言葉があるが、それは行政側の言葉であつて、二十年間もほったらかして五千万円とはあきれたもので、それは国家権力による強奪そのものであり、我々の言葉では『消された年金』と云うべきである。我々が四十年間かけて積み立てた年金資金は、複利計算では百六十才まで生き延びないと元金が取れないとのこと。平均八十才で亡くなると、残り八十年分は政府の収入になるわけで、そのようにして貯めこんだ資金が二百兆円、国の年間予算が八十兆円だから膨大な金額である。

ご承知の如く、その資金をグリーンピアやリハビリ病院に注ぎこみ、それを二束三文に払い下げているのが行政の実態である。このような国は世界中どこにもないのであつて、日本の政府がいかに傲慢不遜であるか思い知るべきである。

帰りは、日高村岩目地でコーヒータム。高知には四時半ごろ帰着した。ご苦労様でした。

美食の旅

松山和雄

最近「美味しいものを食べた」記憶はありますか。きっと、あのときは旨かつた、とか、あそこは美味しかったとか色々とそのシーンを思い出すのでは・・・では、最近「美味しく食べた」記憶はありますか。

せっかくなはじめた山登り、見ごろの紅葉を楽しもうと先日、石鎚山系を目指しました。温暖化の影響か、普段なら紅葉しているはずの木々の葉先が茶色枯れて巻いていました。

満たされない気持ちで瓶が森林道を今夜の宿、山荘しらすへと車を走らせました。例年より暖かい日が続いているとはいえ、そこはやはり四国の尾根、しらす峠は日暮れとともに冷え込んできます。早速、食事の前にお風呂へ、以前より格段に清掃の行き届いた浴槽や洗面台に驚きました。そういえば寝具のシートも清潔感のあるものでした。そんな大きな浴室を独り占めに、ゆつたりと体を温めました。

食堂には耳に優しくジャズが流れています。若いスタッフの皆さんの、さわやかな接客と楽しい会話のおかげでゆつたりと時間をかけていただきました。調理や盛り付け・食材などに特別の工夫の見られるわけでもない、ごくありふれた食事をこれほどまでに「美味しく食べた」のははじめてのことでした。

食事の後は二階ロビーの赤々と熾されている透明感のある炭火に惹かれて大振りの暖炉のそばに腰を下ろしました。ほどなくイターンで指定管理人になられた小森さんの奥さんと、八歳と四

歳の姉弟が炉端に来て、あつたかい炭火を眺めながら語ることもなしに時間を過ごして食事の余韻を楽しみました。

ブランド食材を一流の料理人が手間暇かけて調理し、名産の器に見た目も鮮やかに盛り付けしたものを食べたときの、「美味しいものを食べた幸せ感」でなく、ありふれたものを「美味しく食べた幸せ感」を味わえた旅でした。

第7回高退協すき一旅行 ご案内

08年のすき一旅行を今回は、北海道富良野スキー場にしました。具体的な要項は別紙通りです。少しでも滑られる方、また沢山の参加をお待ちしています。

山の会二百回記念 登山・祝賀会

山の会は1990年に結成、20年近い年月の間に月一回の四国内の山・海外トレッキング・中央の山を含めて二百回の山行を数えたので、それを祝って記念登山をすることになった。80歳を越えた創立以来の会員・多数を占める70代・まだまだ若手と呼ばれる60代・・・名称は『教職員山の会』とあるが、いろいろな職歴の方も参加してバラエティ豊か。助け合つて山に登り、共通の体験をいっぱい持つ仲間である。

一日目は岩黒山に登り、夜はきじ鍋を囲んでおいに飲む。この山の会を最初に呼びかけた坪井さんも足の不調を押し切つて宴会に参加。全員さまさまな思い出話・失敗談など話は尽きず、遅くまで歓談。

二日目は石鎚を目指す予定だったが、あいにくの大雨で中止になった。しかし無事二百回を祝ったことに満足し、それぞれの車で帰途についた。

(山本・山口・小島)

望年会・芸能・作品発表会の案内

毎年恒例の望年会、芸能・作品発表会を下記の日程で開きます。
 会員の皆様が、年一回集い交流を深めてみませんか。
 多数の方々の参加を待っています。

日時 12月5日(水)
 午後5時から
 場所 高知城ホール 4階大ホール
 費用 50000円

*作品、芸能を発表していただける方の参加をお待ちしています。

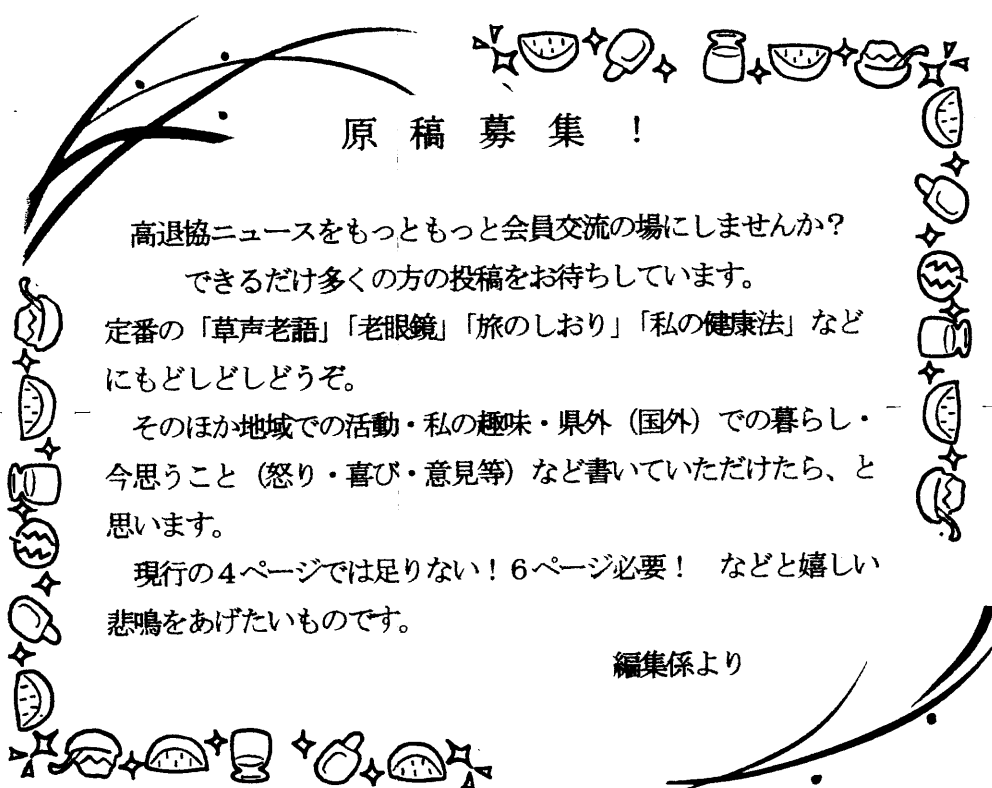
原稿募集!

高退協ニュースをもっともっと会員交流の場にしませんか?
 できるだけ多くの方の投稿をお待ちしています。
 定番の「草声老語」「老眼鏡」「旅のしおり」「私の健康法」などにもどしどしどうぞ。

そのほか地域での活動・私の趣味・県外(国外)での暮らし・今思うこと(怒り・喜び・意見等)など書いていただけたら、と思います。

現行の4ページでは足りない!6ページ必要! などと嬉しい悲鳴をあげたいものです。

編集係より



痛恨の夏

この夏は日光とカラコルムに出掛ける予定であったが、残念な結果に終わった。その経過を綴ってみよう。

八月六日、白根と男体の登山に日光へ出発。その日は丸沼高原に泊まり、翌七日、白根山に登る。この山はかつて「山の会」で尾瀬を訪れた時、至仏山頂から眺めた日光連山の山並みの中に一際突兀とした峰を見た。関東以北の最高峰日光白根山(二、五七八米)である。いつかは登ろうと決意してから十数年が経た。宿からロープウェイで天空に上がる。眼前に山頂を仰ぎ見る。しばらく森林帯を登ると草原状の稜線に出る。最後の急坂

をつめて頂上へ。昼食後、下山にかかる。前白根を越えるコースをとる。五色沼を下に急勾配の道を下る。前白根の稜線一帯は素晴らしい森林高原で泰西の名画のように美しい。道はやがて湯元温泉へ

秦東寺成茂月日記

坪井 幹之

の下りにかかったが、それらがたいへん。難行苦行を強いられた。今までも経験しなかつた悪路の連続で、遂に滑落!足の痛みを堪えながらやっと山麓のゲレンデへ。バスで中禅寺湖畔の旅館へ。

私の健康法

山本 圭一



退職時のドックの結果は予想外の糖尿病の診断、食養生と適度の運動で平均寿命までは元気に暮らせると看護婦さんが慰めてくれた。一年位毎食後30分の散歩を欠かさなかつた。その後歩く事は続けて、平均寿命に近い年齢に達した、今年も北アルプスの薬師岳(2926m)登頂を果たせた。

ともすれば家にこもりがちな私に、口やかましい人が、多くの人と話ができる機会に出席せよと命令されて、週2日、英会話と英書読書会に出ている。中断もあつたがこれも長く続いている。私の健康法はこんなものである。最近、思うところがあつて、玄米、菜食と半身浴をはじめた。これは、長期戦であるのでまた機会があれば結果を報告したいと思う。

私の健康法

岡崎清恵

健康で長生きできているお陰で、今年は私にとって嬉しい記念の年となった。
 喜寿の祝い金を互助会から支給され、高知新聞とRKCの共済する「金婚式」祝賀会に参加することができた。

翌日の八日は男体登山を諦め、二荒神社に参拝後、戦場ヶ原をハイク。痛む足を引きずりながら木道を数時間歩いて最終宿泊地の光徳温泉へ。あこがれのホテルは様変わりしていたが、天然風呂は昔の面影をとどめていた。
 帰高の翌日、近所の外科で診察をうけたが、レントゲンには足首の骨折が写っていた。「右足関節外果骨折」ということで早速入院。かくしてカラコルムのK2対面旅行は中止のやむなきにいたつた。まことに残念至極の夏となつた次第。しかし、日光白根は素晴らしい山で、一見の価値がある名山であると思う。

これまで多くの方々からのご支援・ご援助の賜物と感謝でいっぱいである。

健康の秘訣は何かと考えてみると、私生活でも社会生活でも多忙であることがよいのではと思う。

ポケットの手帳をみるとスケジュールがいっぱい書き込まれていて現職のときと変わらないほど多忙な日々であることに気付く。

週に二、三回、菜園に行き、草を抜き、種を蒔き水や肥料をやり、野菜の生長を見まもる。胡瓜、茄子、白菜、人参、大根、蕪、さつまいも、じゃが芋、豌豆などの収穫が楽しい。

社会生活としては、横浜公民館、高知市公民館連絡協議会、交通安全、よこせと市民会議、横浜、瀬戸町内会連合会、自由民権記念館友の会、山原資料室友の会に係わり、仲間と共に活動している。また日曜日には、早朝、新聞を配っている。

精神的には、仏教に興味をもち、般若心経を唱え、諸行無常、諸法無我、一切皆空の三法印を信じ、一日一日を無事にありがたく過ごしている。

入院費のこと

足首の骨折で八月十日から九月二十八日まで、丁度五十日間入院したわけであるが、その経費について考えてみた。この間の入院費は一三三、六三二円であつたが「山の会」のスポーツ保険から一〇八、〇〇〇円が支給されたので自己負担は二五、〇〇〇円程度ですんだ。その他細かな諸経費があつたが、互助会から見舞金も貰つたのでたいした負担にはならなかつた。三食付きの「座敷牢」は精神的には辛かつたが経済的には安上がりであつた。社会保障制度の有り難味を痛感、後期高齢者などの改悪を許してはならない。長生きをして頑張ろう。

相撲ミニ知識(七十九)

林 勤

相撲協会八十年を振り返る

三、昭和二十六年〜三十年

昭和二十六年

○五月(夏場所)、戦後初の優勝額序幕先場所優勝力士の写真を国技館周囲に掲額する。前場所優勝は横綱照国十五戦全勝

昭和二十七年

○一月、回向院時代(明治四十二年)から四十三年ぶりに力士職が国技館前に復活

○三月、両国国技館占領軍より返還される。

○九月、秋場所から四本柱撤廃(土俵上の四本柱は観戦の邪魔、力士が危険など)。屋形は天井からの吊屋根(重さ六トン)とし、四方に四色の房を下げる。

昭和二十八年

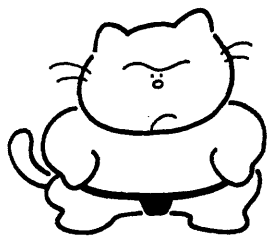
○三月、大阪に本場所開設。

年四場所となる(東京の一月場所を初場所、大阪の三月場所を春場所とする)。

○五月夏場所、NHKテレビの相撲放送開始。

昭和二十九年

○一月、横綱羽黒山引退相撲(羽黒山は昭和十年一月序の口以来十回まで各段優勝、すべて一場所突破している。現在なら一月に入門・序の口で十一月には早くも新入幕である。横綱在位十二年は最長であり、優勝は七度。強い横綱であったが、二歳違いの兄弟子双葉山があまりにも偉大



第十六回全退教四国ブロック交流集会

日時 11月12日(月)から13日(火)
場所 大歩危・祖谷阿波温泉
あわの抄(旧かんぼの宿)
「平和を求めて仲間とともに」
費用 11,000円(1泊2食、交流会費含)
四国の退職者の仲間と、交流してみませんか。
申し込みは、高退協事務局まで

であったのでそのカゲになつた感があるが、昭和二十年に

大横綱双葉山引退のあと、二十年秋〜二十二年秋まで四連覇を果し、戦後の混乱期・衰退期を救った力士と言えるところで少し詳しく紹介した。

○九月、蔵前国技館落成式(蔵前国技館は昭和五十九年まで)

昭和三十年

○一月、栃錦新横綱として登場

○五月、夏場所十日目、十八年ぶりに天皇(観戦)。



俳句

9月15日(土)

南国市紀氏邸址、

国分寺

蹲いの滴一滴に秋刻む

新涼や二間続きの中書院

合田青幹

石組みの要は心礎昼の虫

仁王門くぐり膨らむ萩の風

吉本伸秋

円も方もさつき秋芽を整へし

何椿なるや大きく実のはじけ

中内英明

中門へ白萩の風すがすがし

数咲きて淋しき十月桜かな

中内みち代

天辺を制し一声鳴発てる

金秋や土佐まほろばのここに

小笠原さちを

短歌

真実

叶岡 淑子

「うらなんちゅ」十二万人デモの波 マグマとなりて真実ただす

撃たれなカメラ掲げて真実を伝え続けしジャーナリストよ

「兄ベトの分まで生きる」戦争を告発しやまぬドクさんの涙

祈り

山本 晶子

シクラメンのみどり葉つよく伸びゆけり 枯れしと思(も)いて捨ておきし鉢に

よるよると歩きいし姫(おうな)赤信号になるまでによりよう渡り終えたり

人知にては為しがたきこと多々ありて朝々に供え祈りを捧ぐ

ジャンヌの瞳

榊原 忠彦

ピカソには負けてはならじと描きたるジャンヌの瞳は強く際立(きはだ)つ

芸術と愛に畢(を)へたる若きモディ後(あと) 追うジャンヌは子を孕(はら)みつつ

目を瞳(みは)り「モディリアーニ」映画を観るほどに懐かし旧作「モンパルナスの灯」

(モンパルナスの灯)は、一九五八年モディを演じたジェラルド・フィリップらによる名画

訃報

篠田眞武さん

九月二二日逝去

吉松修夫さん

六月二六日逝去

田中 平さん

五月三一日逝去

近森実男さん

九月二六日逝去

戸田公子さん

一〇月二六日逝去

慎んでご冥福をお祈りします



川柳

第四回

西国川柳平和の旅 第三回

小澤 幸泉

徳道の無念が眠る

法起院(番外)

戦さ止(や)みの道また一歩

観音(正)寺(第三十二番)

永遠(とこしえ)の平和漕ぎ出す

宝厳寺(第三十番)

ヴォーリスのまことの悟り

長命寺(第三十一番)

千余年開祖まみえぬ(し)

圓教寺(第二十七番)

苦穢浄土祈り拡がる

南圓堂(第九番)

良慶師深き

祈りの清水寺(第十六番)

球音の残響

賑きあう藤井寺(第五番)

平安のロマンを

馳せる石山寺(第十三番)

民衆の苦疫背負いし

六波羅(密)寺(第十七番)

高齢者の切なき

願い観音寺(第十五番)

煩惱の登廊はじまる

長谷(の)寺(第八番)

(次号へ)(全六回)

注目!!

会費納入についてお願い

本年度も残り少なくなりました。年会費2000円の納入をお願いいたします。